

巻頭言

「働き方改革」を想う

一般財団法人 日本建築総合試験所
常務理事 角 彰



日頃より当法人をご愛顧賜り誠にありがとうございます。昨年度より建築確認評定センター長を拝命し、職員と共に皆様方のご期待に沿えますよう微力を尽くしてまいりましたが、最近の社会の変化は目まぐるしく、当法人も本年度からは「GBRCビジョン2030」を策定し、10年後にも社会から求められる法人となるべく活動を続けております。

この変革の時代で、私が特に重要と考えますのは「働き方改革」というスローガンです。この言葉には色々の期待が込められています。長時間労働からの解放、女性が活躍できる環境づくり、多様な働き方の実現、等々です。それぞれは勃興期を過ぎ、成熟期あるいは停滞期に入った日本経済を再浮上させるべく期待が込められています。一方で最近の働き方の変化として、指示待ち人間、マニュアル化人間、デジタル情報に偏り直接のコミュニケーションを嫌う傾向、等々負の面も強調されています。我々が所属する建設業界は特に長時間労働を克服することが喫緊の課題であります。一方でモノづくりの最前線である建設業界は働くことの意義と喜びを若者に提供する必要があります。

私は「働き方改革」で今求めるべきものは「仕事」に対する考え方の改革だと考えています。本来、仕事とは「他人のためにするもの」であり、人間の本性は「人が喜ぶことをして自分の喜びとする」、「人の喜びを自分の喜びとする」ことにあります。家族だけで孤立せず、多くの家族単位が協力し合って生き延びてきた人類進化の過程を考えてもわかります。その結果として「対価」を頂き、自らも生活を楽しむことができます。しかし、専門化、分業化されてきた現在の社会では、仕事の結果である「他人の喜び」に直接触れることができず、それが自分本位に仕事を考える誤解の元凶だと思われがちです。仕事がどう活用されて社会にどう影響を与えていくかについて、個人も組織も敏感になる必要があります。

もう一つ大事な点は、仕事に「自ら考えて工夫する自由」があることです。それは「主体的に考え行動する楽しさ」に繋がります。やらされるのではなく主体的に進めるという意識です。このために個人も組織も「楽しくなるように仕事を工夫する」努力が必要です。人は楽しいことには「時間を忘れて」取り組みます。同時に自分を客観的に眺めて効率を考えることも必要です。充実した仕事の時間があるこそ、心に余裕ができ、個人生活も楽しめます。楽しんでいられる人には、人が集まってきます。それが人間の幅を広げ、仕事の幅も広がっていきます。そして益々、「仕事を楽しむ」こととなります。

仕事に対する姿勢を考えてみましょう。新しい世界を楽しく生きていくために。